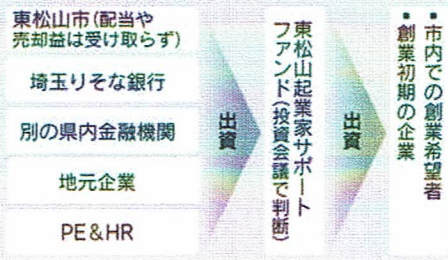


出資1号に資格講座事業

東松山市のファンド

起業家サポートファンドによる
出資の流れ(イメージ)



埼玉県東松山市と埼玉りそな銀行が昨年設立した「起業家サポートファンド」による初の出資先が決まった。介護などに役立つ「ハンドコミュニケーション療法士」の民間資格取得講座事業を同市で展開する企業に資金を提供する。出資金は1000万円。同ファンドは自治体が出資し、支援対象の地域を限定した官民連携による珍しい起業支援で事業の成否に注目が集まる。

介護などで需要 コミナスへ1000万円

市や銀行の担当者らを集めた投資会議で事業計画を説明する鳥塚氏 (中央)



出資先は一般社団法人国際オーガニックセラピー協会 (IOTA)、東京・渋谷)の鳥塚ルミ子代表理事が1日に設立した新会社、コミナス (東松山市)。東松山市と埼玉りそな銀行、ファンドの運営・管理を担うベンチャー起業支援のPE&HR (東京・千代田) などで構成する投資会議で出資を認め、近く同社の第

三者割当増資に応じる。ハンドコミュニケーションは手のひらや手の甲、指などを刺激するリフレクソロジーの一種。手に触れることで安心感を与え、ストレス解消や認知症ケアなどに役立つとされる。IOTAは2016年4月に療法士の認定と資格取得のための講座事業を開始。介護職など福祉関連で需要が大きく、今年7月までに150人以上が受講した。

コミナスはIOTAの講座事業を引き継ぎ、ファンドから得た資金を元手に、講座を現在の東京都内だけでなく埼玉県内でも始める方針。受講料

やスクール運営などで収益を確保する。1年で300人の受講者を獲得し、5年で総売上高を約10億円にする目標を掲げる。事業が軌道に乗れば、スクールの全国展開も視野に入れる。

同ファンドは東松山市内に本拠地を置き、サービスや事業の内容が新しい企業を支援するのが目的だ。鳥塚氏の実績や開業に大規模な設備投資を必要としないコミナスのビジネスモデルなどを評価した。鳥塚氏は埼玉県出身で「東松山からハンドコミュニケーションを普及させたい」と意気込む。

同市では鳥塚氏のほかにも、市内出身者らの起業相談に応じている。行政や地域金融機関が連携

した起業家向けファンドによる支援は、起業で最大の障壁となる資金調達の問題を解消しやすくする効果が見込める。

ファンド設立から1年で初の出資案件と実績はこれからだが、起業の活性化に役立つと他の自治体も関心を寄せているという。PE&HRの山本亮二郎社長は「起業支援の新たな手法として全国の自治体に広がる可能性がある。東松山で実績を積み、地域経済の活性化につなげたい」と語る。